

利用者さんと笑顔のやりとり 介護と漫才、二足のわらじを履く介護士

ワーク・アズ・ライフ

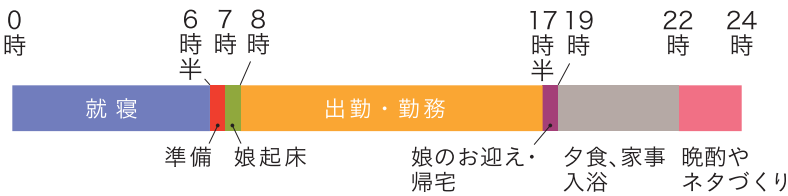
豊嶋修平さん / 37歳

社会福祉法人天寿会 介護付有料老人ホーム ヴィラ梅光
生活相談員・介護福祉士

キャリア

22歳	介護老人保健施設に就職
25歳	介護福祉士の資格を取得
27歳	今の職場に転職
35歳	お笑い養成学校に社会人入学
36歳	漫才コンビ「ベングルー」結成

ある日の1日



- 入居者の感謝と笑顔に救われる
- 介護の仕事で大事にしたいことは「笑顔のやりとり」
- 笑いを学んで、入居者や地域の高齢者、そしてお子さんとのつながりが深まる

福祉の仕事をする前は何かをしていた？

— 介護士の道一筋15年

21～22歳の頃に介護の世界に入ってから、介護一筋です。介護老人保健施設が最初の職場で、働きながら介護の基礎を学び、介護福祉士の資格も取得できました。実家に近い方が良いかなと今の職場に移り、現在は生活相談員も兼務しています。介護の仕事は不定期なことが多いけれど、小学校4年の娘の子育てなどは、親に助けられています。

でも、実はプライベートのことで落ち込んで、このままでは「人に優しくできない」と介護の仕事を辞めようと思いついた時期があって。そんな時、入居者さんの「ありがとう」の言葉で、なんて自分は小さいのだろうと気付かされました。

— きっかけは祖父への償いの気持ち

昔、私を可愛がってくれた実家の祖父が入退院を繰り返して、なんとか元気づけたいと一緒に散歩に出かけていたんです。ある日、雨が降る中、「行くぞ」と誘われるがまま散歩をしたんですが、祖父が風邪をひいて入院し、容態が急変して、そのまま息を引き取りました。

祖父に何かもってしてやれなかったのかという後悔の念がずっとあって、その思いが介護の道へ進むきっかけとなりました。今日まで頑張れているのは、祖父への償いの気持ちもあるのかな、と思います。

！ 福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？



— 介護は笑顔が大事

僕は、介護は天職だと思っています。介護に対して良くないイメージを耳にすることが多いのですが、どの仕事でも少なからず大変なことがありますよね。いかに自分が楽しみながら、仕事に打ち込めるものを見出せるかが大事だと思うんです。私の場合、入居者の皆さんの笑顔や感謝の言葉が大きなエネルギーになっていて、逆に人をもっと笑顔にできたらなと思ったんです。

そんな思いもあって、3年前にお笑い芸人の養成所が福岡にできた時に、一念発起して入学しました。いまは漫才コンビ「ベングルー」も組んで、介護の仕事を続けながら、月に1回ほど舞台に立ったりします。職場のスタッフや利用者さんも応援してくれています。テレビに出るときは、食堂に集まってみんなで観て喜んでくれるので、やっていてよかったなあと思います。施設内のアナウンスなどで笑いを挟んだり、普段の仕事でも活かしていこうと思っています。

！ 仕事以外はどんな生活をしている？

— ネタ作りと一人娘と過ごす休日

休みの日は、漫才の練習をすることが多いです。僕の相方は、普段弁護士をしているんですが、相方が作ってくれたネタの原案をもとに、セリフは二人で話しながら決めていきます。そして、練習風景を映像に撮って、動画を見ながら細かい修正をしていく感じです。練習の成果を敬老会で披露したりもして、みなさん面白いと笑ってくれました。

あと、小学校4年生の娘とは、サイクリングをしたり、公園などに遊びに出かけたり、今しか楽しめないようなことを一生懸命やっています。時には漫才の練習相手にもなってくれます。舞台にも来てくれたりもしますよ。女の子なので、いつか嫌われちゃうかもしれないけど、娘との絆は強いものがあると思っています。



取材を
終えて

笑顔が好きで、笑顔を大切にしている豊嶋さん。介護、漫才、普段の生活。どの場面でも、誰かに笑ってもらうことへの思いを自然体で話される姿が印象的でした。